

お客様各位

■□=====

□

株式会社 京浜予防医学研究所

■□ KMLメールニュース □■ ◆◆ VOL. 94 ◆◆

□

=====□■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2020年 11月 28日発行

<https://www.kml-net.co.jp/>

□■

KMLメールニュースVOL. 94をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の
一助としていただければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 アレルゲンコンポーネントについて
- 【2】 新型コロナウイルス検査
- 【3】 KMLインフォメーション 9月～11月分のお知らせ

1 アレルゲンコンポーネントについて

はじめに

「アレルゲン」とは、アレルギーの原因となるものをいいます。
たとえばダニ虫体やスギ花粉からは様々な成分を抽出することができますが、「ダニアレルゲン」や「スギアレルゲン」は、多くの場合この抽出物を指し、「粗抽出アレルゲン」といいます。
アレルゲンの多くはタンパクであり、粗抽出アレルゲンには多種のタンパクが含まれます。
その中には、そのアレルゲンの由来生物に特異的なタンパク、重篤な症状に関連するタンパク、他のアレルゲンと交差性を有するタンパク等が含まれており、これら個々のタンパクを「アレルゲンコンポーネント」といいます。

日常診療で使用可能なアレルゲンコンポーネント

粗抽出アレルゲン	コンポーネント
卵白	オボムコイド (G a l d 1)
小麦	ω-5グリアジン (T r i a 19)

ピーナッツ	A r a h 2
クルミ	J u g r 1
カシューナッツ	A n a o 3
牛乳	カゼイン (B o s d 8)
	α -ラクトアルブミン (B o s d 4)
	β -ラクトグロブリン (B o s d 5)
大豆	G l y m 4
ラテックス	H e v b 6. 02

期待される臨床的有用性

臨床的感度、特異度の向上と交差性成分による感作範囲の限定
アレルゲンコンポーネントを用いた診断法に期待される最も重要な役割の一つは、真の感作と交差反応による感作の鑑別を可能にすることです。

重篤な症状を発現するかどうかのリスクの推定

アレルゲンコンポーネントを用いた診断法は、特に食物アレルギーにおいて、患者のリスク評価を改善できるため日常診療での使用が広がっています。

食物はそれぞれ固有のアレルゲンコンポーネントを含有しており、その中には熱や消化に対して安定なものとは不安定なものがあります。

アレルゲンコンポーネントの安定性を理解し患者の病歴を聴取することは、臨床医が全身性のリスクと局所反応のリスクを鑑別する上で役に立ちます。

熱や消化に不安定なアレルゲンは局所反応（特に口腔内の症状）を伴うものの、調理された食物は摂取できる可能性が高いのに対し、熱や消化に安定であるアレルゲンは局所反応に加えて全身性を伴う傾向があります。

例 オボムコイド（耐熱性卵タンパク）

日常診療にて測定可能な鶏卵由来のアレルゲンコンポーネントではオボムコイド特異的 IgE があります。

オボムコイドは卵白の主要タンパク質の一つで、他の成分よりも熱や消化酵素の作用でアレルゲンとしての性質が失われにくいとされています。

卵白と組み合わせて判定することで、加熱卵や卵加工食品の摂取の可能性についての判別に有用であると報告されています。

卵白とオボムコイドを組み合わせた検査フローを次に示します
(指導 藤田保健衛生大学医学部 客員教授 宇理須 厚雄先生)。

検査フロー

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/kensaflow2020-11.pdf>

卵を除去している卵アレルギーの患者さんでも、オボムコイドの検査結果によって加熱卵や卵加工食品が摂取できる可能性があります。

アレルギー診断にアレルギーコンポーネントをご活用ください。

2 新型コロナウイルス検査

当社で受託している新型コロナウイルス検査は PCR 法による遺伝子検査と抗体検査（ECLIA 法）です。

PCR 法は、新型コロナウイルス検出に最も優れており、検査材料として主に鼻咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液、唾液が用いられます。

鼻咽頭ぬぐい液は、最も標準的で信頼性の高い検体ですが、採取する側の感染リスクが高いため感染予防の徹底が必要です。

鼻腔ぬぐい液は、有用ですが鼻咽頭ぬぐい液と比較すると検出感度がやや低いとの報告があります。唾液は、鼻咽頭ぬぐい液と同等の検出感度を示し、採取手技に左右されない実用的な検体ですが、発症10日以降は検出感度の低下が見られます。いずれの材料でも、ウイルス量が少ない例では偽陰性となることがありますので、結果の判断は慎重に行う必要があります。

抗体検査は、IgM、IgG どちらにも反応する試薬を用いています。新型コロナ感染症において、症状を有し PCR 検査が陽性になった人の抗体検出率は PCR 陽性確認後 1 週間以内で 65.5%、2 週間以内で 88.1% と試薬添付文書に記載されています。また、IgM と IgG の検出時期があまり変わらないとの報告があります。一般的に感染歴の指標に使用されます。

新型コロナウイルス感染はまだ終息が見えない状況にあります。検査体制は強化され、受託可能な PCR 検査、抗体検査以外にも抗原検査ができるようになりました。感染診断には PCR 検査が有用ですが、過去に症状があり既感染があったか知りたい方、無症状なのに心配で検査を希望されている方などに抗体検査をご利用されてはいかがでしょうか。

参考文献

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針 第 2 版
厚生労働省ホームページより引用

3 KML インフォメーション 9 月～11 月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KML インフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2020年 9 月18日 検査内容変更のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0918.pdf>

2020年 9 月23日 細菌学検査依頼書一部改訂のお知らせ

<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0923.pdf>

2020年10月19日 インフルエンザ（HI）測定株変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-1019.pdf>

■□=====



最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0042 神奈川県川崎市宮前区南野川 3-22-1

=====□■